

＝ 心清らかに ＝

曇りや雨の日が多く梅雨明けが遅れている。その梅雨が明けた沖縄や奄美では、「高温に関する早期天候情報」も発表されるなど、今夏は猛暑が予想されており、熱中症の危険度が高い状態が続くという。農作物にも長雨と日照不足そして高温による被害が出る恐れありとして万全な対策が呼びかけられている。

今年の梅雨、令和2年7月豪雨と命名された集中豪雨は、熊本県を中心に九州や中部地方など日本各地に甚大な被害をもたらした。犠牲となられた方々、被災地の皆様に心から哀悼の意と御見舞いを申し上げる。ボランティア派遣等、何とか手を差し伸べたいが、新型コロナウイルスの感染問題が行く手を阻み、思うような手立てができないことに悔しさがこみ上げる。引き続き、連合や基幹労連県本部・県センターとも連携を取りながら対応を検討していきたい。

猛暑日が続くという8月に入った。それぞれの努力とやり方で体調維持に努め、酷暑の時期を乗り越えなければならない。体調管理と言うにはおこがましいがランニングを趣味の一つとしている。コロナ禍で荻窪の単身赴任寮にいる時間が長くなったこともあり4月～6月にかけて走り過ぎ、目下、右ひざを痛めウォーキングに切り替えている。善福寺川沿いにある遊歩道、東京とは思えないほど水が澄み、時にカワセミを見かけることもある、その上流に善福寺公園がある。走るも、歩くも最高のコース、ランニング時には立ち止まることもなかったが、ウォーキングはいろんな景色をゆっくりと眺める機会となっている。公園の池に可憐に咲く白やピンクのスイレンの花。ただ、蓮（はす）との見分けがつかず、ずっと蓮の花と思っていたが、公園の看板で初めてスイレンと知ったのも歩き始めてである。

お盆も近いが、蓮はその独特の花や葉っぱが美しい水生植物。見ていると清々しい気持ちになることから、仏教では極楽浄土に咲く花とされ、古くから慈しまれている。

その池の花が蓮と勘違いしていたこともあり、池のふちからずーと眺めていたら、小学校の頃に読んだ蜘蛛の糸（芥川龍之介）を思い出した。ご存知の方は多いだろうが、その登場人物はお釈迦様とインドの大泥棒・犍陀多（カンダタ）、名前がなんとも…。それは、「ある朝、お釈迦様が極楽の蓮池を散歩中、その池のふちにたたずみ、ふと下の様子をご覧になった。この極楽の蓮池の下は丁度地獄の底にあたっていた。するとその地獄の底に犍陀多という男が一人、生前は殺人や悪事を働いていた大泥棒だが、蜘蛛の命を助けたことを報いるため、お釈迦様はこれを救ってやろうと極楽のクモの糸を採ってきて蓮池から地獄へ垂らした。犍陀多は手を打って喜び、クモの糸を掴んで地獄から逃げ出そうと上って行った。途中で下を見ると、地獄の罪人たちが糸に群がって上ってきていた。犍陀多は罪人に向かって、『この蜘蛛の糸はおれものぞ！誰に断ってこの糸を上っているんだ、降りろ・降りろ』、その途端、犍陀多の持っていたところから糸はプツリと切れた…」、自分のことばかり考えて罰を受けてまた地獄に戻ってしまったというお話。

コロナ禍の今、そして、いつどこで起きるかわからない自然災害。互いの思いやりと支え合いが、この難局を乗り越え得る糸かもしれない。相手を想い、決して互いに離さない半分半分に持つ糸が絆。働く職場で、安全に、健康に、夏を乗り切る思いも同じ、仲間を守る「夏の陣」。気を引き締め、声をかけ、労使一丸となって、懸命に働く仲間たちとその家族を支えていこう。

蓮の花もスイレンも午前中に咲いた花は午後には閉じてしまう。満開の花を見るには朝7時～9時頃がおすすめ。近くにそんな場所のある方は、お休みの日ちょっとばかり早起きし、散歩がてらに心身のリフレッシュをはかってみては。きっと心も清らかに明日の元気が湧いてくるはず…。

ご安全に

2020年8月1日

日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長 神田 健一